

年代 世紀 (Century)

1800年 1810年 1820年 1830年 1840年 1850年 1860年 1870年 1880年 1890年 1900年 05年 1910年 15年 1920年 25年 1930年 35年 1940年 45年 1950年 55年 1960年 65年 1970年 75年 1980年 85年 1990年 95年 2000年 05年 2010年 15年

インクを使うペンとその派生

つけペン
~万年筆

ボールペン

フェルトペン
(マーキングペン)

1808年 ドンキン(英)がルーフ型金属ペン先の特許取得

1809年 イギリスでペン軸にインクを溜められるペンが考案される

1830年 アメリカで現在のペン先の原型が作られ、大量生産が可能になる

1852年 ホーキンス(英)が、硬いイリジウムのペンポイント付きの金のペン先を開発

1856年 パーキン(英)が化学的製法で合成染料(アニリン染料)をつくる

1884年 ウォーターマン(米)が世界初の毛細管現象を応用した「ザ・レギュラー」を発表

1884年 ラウド(米)がボールペンを考案するが実用化できず

1908年 石川徳松がペン先製造に着手

1908年 日本で鋼ペンとインクの公式書類への正式使用が認められる

1909年 並木良輔が軸にインクが溜められる『並木式鳥口』を発売

1911年 阪田久五郎が万年筆や金のペン先の製造・販売を始める

1938年 ビーロー・ラースロー(ハンガリー)がボールペンを発明し、1943年にアルゼンチンで発売

1940年代後半 日本の複数のメーカーからボールペンが発売される

1940年代 アメリカで現代のしくみに近い「フラッシュペン」が発売

1950年代 日本でインクカートリッジが考案・発売される

1952年 ローゼンタール(米)が「マジックマーカー」を開発

1953年 寺西科学工業が油性の「マジックインキ」を発売

1958年 三菱鉛筆が「ユニ」を発売

1963年 パイロット万年筆が、世界初のキャップがない「キャップレス」を発売

1963年 大日本文具が水性の「サインペン」を発売

1963年 トンボ鉛筆が「MONO」を発売

1964年 オートが世界初の水性ボールペンを開発

1966年 カーター・インクが蛍光インクを用いた「ハイライター」発売

1966年 三菱鉛筆が「ハイユニ」を発売

1968年 フィッシャー(米)が開発した「Anti-Gravity 7」がアポロ7号に採用

1968年 大日本文具が0.7mm、0.5mmのポリマー芯を発売

1970年前後 日本の公文書にボールペンが使用できるようになる

1971年 スタビロが蛍光ペン「スタビロ ポス」を発売

1972年 ぺんてるが世界初の樹脂チップ水性ボールペン「ボールPentel」を発売

1973年 ぺんてるが0.2mmのポリマー芯と世界初の0.2mmシャープペンシル「スライド0.2」を発売

1977年 ゼブラが「シャーボ」を発売

1978年 パイロットが「フレフレ」機構を開発

1984年 サクラクレパスが世界初の水性ゲルインクボールペン「ボールサイン280」を発売

1992年 パイロットが人間工学をデザインに採り入れた「ドクターグリップシャープ」を発売

2003年 三菱鉛筆が海外で低粘度油性ボールペン「ジェットストリーム」を発売

2006年 パイロットがフランスで消せるボールペン「フリクションボール」を発売

2008年 「ハイユニ」の硬度が10H~10Bまでとなる

2013年 パイロットが子供向けの「kakuno」を発売

2014年 ぺんてるが「オレンズ」を発売

2017年 ぺんてるが0.2mmとしては初の自動芯出し機構搭載した「オレンズネロ」を発売

19世紀後半 フェルトペンが工業的に生産されるようになる

1908年 リー・ニューマン(米)がインクを吸収できるペン先をもつフェルトペンの特許出願

1913年 小川春之助商店が鉛筆の製造販売を始める

1915年頃 早川徳次が金属製繰出鉛筆を開発し、「エバー・レディ・シャープ・ペンシル」として売り出す

1930年 寺西科学工業が油性の「マジックインキ」を発売

1945年 トンボ鉛筆が「8900番」を発売

1946年 三菱鉛筆が「9800番」を発売

1950年 三菱鉛筆が「9000番」を発売

1952年 大日本文具が0.3mmのポリマー芯と世界初の0.3mmシャープペンシル「ぺんてるメカニカ」を発売

1958年 三菱鉛筆が「ユニ」を発売

1960年 大日本文具がポリマー芯(0.9mm)と世界初のノックシャープペンシル「ぺんてる鉛筆」を発売

1962年 大日本文具が0.7mm、0.5mmのポリマー芯を発売

1966年 三菱鉛筆が「ハイユニ」を発売

1970年以降 100円のような低価格の物や高機能のシャープペンシルが登場

1977年 ゼブラが「シャーボ」を発売

1978年 パイロットが「フレフレ」機構を開発

1992年 パイロットが人間工学をデザインに採り入れた「ドクターグリップシャープ」を発売

2008年 「ハイユニ」の硬度が10H~10Bまでとなる

2014年 ぺんてるが「オレンズ」を発売

2017年 ぺんてるが0.2mmとしては初の自動芯出し機構搭載した「オレンズネロ」を発売

1908年 重力が小さい宇宙船内では、重力を利用するペンは使えません。サインペンは毛細管現象を利用し、スペースペンは加圧することで筆記が可能となるんだよ。

※「マジック」「マジックインキ」は株式会社内田洋行の登録商標です

インクを使わないペンの仲間

鉛筆・インクを使わないペン

シャープペンシル

1835年 ステッドラー社が設立され、鉛筆の製造開始する

1851年 ファーバーカステルが鉛筆の規格(形、長さ、太さ、硬度)を整える

1877年 眞崎鉛筆製造所が鉛筆の量産を始める

1887年 眞崎鉛筆製造所が鉛筆の量産を始める

1905年 ファーバーカステルが「カステル9000番鉛筆」を発売

1913年 小川春之助商店が鉛筆の製造販売を始める

1915年頃 早川徳次が金属製繰出鉛筆を開発し、「エバー・レディ・シャープ・ペンシル」として売り出す

1930年 寺西科学工業が油性の「マジックインキ」を発売

1945年 トンボ鉛筆が「8900番」を発売

1946年 三菱鉛筆が「9800番」を発売

1950年 三菱鉛筆が「9000番」を発売

1958年 三菱鉛筆が「ユニ」を発売

1960年 大日本文具がポリマー芯(0.9mm)と世界初のノックシャープペンシル「ぺんてる鉛筆」を発売

1962年 大日本文具が0.7mm、0.5mmのポリマー芯を発売

1963年 トンボ鉛筆が「MONO」を発売

1966年 三菱鉛筆が「ハイユニ」を発売

1970年以降 100円のような低価格の物や高機能のシャープペンシルが登場

1977年 ゼブラが「シャーボ」を発売

1978年 パイロットが「フレフレ」機構を開発

1992年 パイロットが人間工学をデザインに採り入れた「ドクターグリップシャープ」を発売

2008年 「ハイユニ」の硬度が10H~10Bまでとなる

2014年 ぺんてるが「オレンズ」を発売

2017年 ぺんてるが0.2mmとしては初の自動芯出し機構搭載した「オレンズネロ」を発売

紙は中国で発明されたんだね!

筆・筆記媒体

筆

粘土板
パピルス
羊皮紙
甲骨
木簡・竹簡
紙

1898年 液体の墨汁である「開明墨汁」が発売

1971年 小学校で「書写」が必修科目に

1972年 セーラー万年筆が「ふでペン」を発売

1973年 呉竹精昇堂が「くれ竹筆ペン」を開発

1981年 日本で本格的な紙のリサイクルが始まる

1983年 長期間の保存が可能な中性紙の普及が始まる

20世紀 大プリニウスの「博物誌」の記述からパピルスが復元される

明治時代に、日本の教科書に洋紙が使われるようになったんだ

紙の博物館発行 わかりやすい紙の知識を参考

紙のつくり方の広がり

紙の誕生 中国 前2世紀頃

ハティバ 1151年

メキシコ 1575年

アメリカ 1690年

カナダ 1803年

オーストラリア 1868年

フェス 1100年

ファブリアーノ 1276年

カイロ 10世紀

バグダード 793年

サマルカンド 757年

タラスの戦い 751年

トルファン 399年

敦煌 150年

楼蘭 260年頃

ベトナム 4世紀頃

ベトナム 3~6世紀

朝鮮 3~6世紀

日本 610年

1840年 ケラー(独)が化学的手法で木材からパルプを作る製法を開発

日本で洋紙工場の操業が始まる

1874年

出来事の種類 (色の意味)

- 歴史的な出来事
- 世界初の出来事・商品
- 日本の出来事・商品

洋紙のにじみ止めに硫酸アルミニウムを用いると、できた紙は酸性となります。このため、長期間保存に耐えられないという問題が生じました。現在では、改善されています。

監修：高畑正幸(文具王)